

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第5630386号
(P5630386)

(45) 発行日 平成26年11月26日 (2014.11.26)

(24) 登録日 平成26年10月17日 (2014.10.17)

(51) Int.Cl.

F 1

A 4 7 B 17/04 (2006.01)

A 4 7 B 17/04

A 4 7 B 17/00 (2006.01)

A 4 7 B 17/00

A

A 4 7 B 7/00 (2006.01)

A 4 7 B 7/00

A

F 1 6 B 12/32 (2006.01)

F 1 6 B 12/32

B

F 1 6 B 12/20 (2006.01)

F 1 6 B 12/20

B

請求項の数 5 (全 13 頁)

(21) 出願番号 特願2011-131181 (P2011-131181)

(22) 出願日 平成23年6月13日 (2011.6.13)

(62) 分割の表示 特願2008-118092 (P2008-118092)
の分割

原出願日 平成20年4月30日 (2008.4.30)

(65) 公開番号 特開2011-218185 (P2011-218185A)

(43) 公開日 平成23年11月4日 (2011.11.4)

審査請求日 平成23年6月13日 (2011.6.13)

(73) 特許権者 000139780

株式会社イトーキ

大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番12号

(73) 特許権者 390005452

伊藤喜オールスチール株式会社

千葉県野田市尾崎2288

(74) 代理人 100074561

弁理士 柳野 隆生

(74) 代理人 100124925

弁理士 森岡 則夫

(74) 代理人 100141874

弁理士 関口 久由

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 デスクの仕切装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数の天板を、脚柱と支持アームとからなる側面視略T字形を有する中間脚を介して側方へ連設したデスク列において使用し、デスク列の手前の通路から天板上にわたって仕切パネルを立起状態に保持してデスク空間を区画してなるデスクの仕切装置であって、前記天板の下面側縁を前記中間脚の上面に載置して連結し、前記仕切パネルは、少なくとも前記天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒L字形の一体形状の側部仕切パネルからなり、該側部仕切パネルの水平部分は天板上に位置し、垂直部分は通路に位置してなることを特徴とするデスクの仕切装置。

【請求項2】

複数の天板を、脚柱と支持アームとからなる側面視略T字形を有する中間脚を介して側方へ連設したデスク列において使用し、デスク列の手前の通路から天板上にわたって仕切パネルを立起状態に保持してデスク空間を区画してなるデスクの仕切装置であって、前記天板の下面側縁を前記中間脚の上面に載置して連結し、前記仕切パネルは、少なくとも前記天板上に載る長方形の側部仕切パネルと、通路の床面まで延びた長方形の通路仕切パネルとからなり、前記側部仕切パネルと通路仕切パネルの側縁同士を連結した倒L字形の形状であり、前記側部仕切パネルは全部が天板上に位置し、前記通路仕切パネルは通路に位置してなることを特徴とするデスクの仕切装置。

【請求項3】

前記デスク列は、天板の後部に立設した机上パネルを有し、前記側部仕切パネルの端部

10

20

を、係止具を用いて前記机上パネルの上下端部に係止してなる請求項 1 又は 2 記載のデスクの仕切装置。

【請求項 4】

前記側部仕切パネルの端部であって、上端部に取付けた上係止具を前記机上パネルの上端部に係止するとともに、下端部に取付けた下係止具を前記机上パネルの下端部に係止してなる請求項 3 記載のデスクの仕切装置。

【請求項 5】

前記天板上に位置する前記側部仕切パネルの水平部分で前記天板の前縁部に対応する位置にクランプを設け、該クランプの押圧部材を天板の下面に圧接して該天板の前縁部を上下から締め付けて連結してなる請求項 1 ～ 4 何れか 1 項に記載のデスクの仕切装置。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、デスクの仕切装置に係わり、更に詳しくはデスク列の通路と天板上に設置してデスク空間を区画するデスクの仕切装置に関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来から、複数の天板を中間脚を介して側方へ連設する構造の組立式デスクは各種提供されている。例えば、特許文献 1 には、少なくとも両端部に配する端部脚、中間に配する中間脚、脚間を連結する脚間モジュール及び天板を有し、前記天板の両側下面を前記端部脚及び中間脚に載置して取付手段にて取付け、中間部における天板同士の端面を直接接合して構成する組立式デスクが開示されている。また、前後に天板を配してその中央部に机上パネルを設けること、またサイドパネルを設けることも公知である。

20

【0003】

通常、企業のオフィスでは、部や課といったグループ単位でデスクが配置されている。前述の組立式デスクで所定の長さのデスク列を構成し、このデスク列を間に通路を設けて複数平行に設置し、一般の従業員のデスクワークに供している。一方、これら部や課の長である管理職やマネージャーの使用するデスクは、前記デスク列から離れた位置に設置している。通常、管理職やマネージャーの使用するデスクは、比較的大きなデスクを用い、広いデスク空間を確保している。

30

【0004】

しかし、管理職やマネージャーの使用するデスクが、一般の従業員が使用するデスク列から離れている配置は、オフィス空間の無駄が多く、効率的な配置とは言えない。また、頻繁に従業員の人数や配置が変わるような流動的な組織では、それに応じてデスク空間を自由に変えることが要求されるが、そのような要求に答えるには通常は大掛かりな作業になり、コスト高となる。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献 1】特開 2007 - 151824 号公報

40

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

そこで、本発明が前述の状況に鑑み、解決しようとするところは、デスク列に最小限のオプションの追加により、通路から天板上にわたってデスク空間を簡単に区画することが可能なデスクの仕切装置を提供する点にある。

【課題を解決するための手段】

【0007】

本発明は、前述の課題解決のために、複数の天板を、脚柱と支持アームとからなる側面視略 T 字形を有する中間脚を介して側方へ連設したデスク列において使用し、デスク列の

50

手前の通路から天板上にわたって仕切パネルを立起状態に保持してデスク空間を区画してなるデスクの仕切装置であって、前記天板の下面側縁を前記中間脚の上面に載置して連結し、前記仕切パネルは、少なくとも前記天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒Ｌ字形の一体形状の側部仕切パネルからなり、該側部仕切パネルの水平部分は天板上に位置し、垂直部分は通路に位置してなることを特徴とするデスクの仕切装置を構成した（請求項１）。

【０００８】

また、本発明は、複数の天板を、脚柱と支持アームとからなる側面視略Ｔ字形を有する中間脚を介して側方へ連設したデスク列において使用し、デスク列の手前の通路から天板上にわたって仕切パネルを立起状態に保持してデスク空間を区画してなるデスクの仕切装置であって、前記天板の下面側縁を前記中間脚の上面に載置して連結し、前記仕切パネルは、少なくとも前記天板上に載る長方形形状の側部仕切パネルと、通路の床面まで延びた長方形形状の通路仕切パネルとからなり、前記側部仕切パネルと通路仕切パネルの側縁同士を連結した倒Ｌ字形の形状であり、前記側部仕切パネルは全部が天板上に位置し、前記通路仕切パネルは通路に位置してなることを特徴とするデスクの仕切装置を構成した（請求項２）。

【０００９】

ここで、前記デスク列は、天板の後部に立設した机上パネルを有し、前記側部仕切パネルの端部を、係止具を用いて前記机上パネルの上下端部に係止してなることが好ましい（請求項３）。

【００１０】

更に、前記側部仕切パネルの端部であって、上端部に取付けた上係止具を前記机上パネルの上端部に係止するとともに、下端部に取付けた下係止具を前記机上パネルの下端部に係止してなることが好ましい（請求項４）。

【００１１】

そして、前記天板上に位置する前記側部仕切パネルの水平部分で前記天板の前縁部に対応する位置にクランプを設け、該クランプの押圧部材を天板の下面に圧接して該天板の前縁部を上下から締め付けて連結してなることがより好ましい（請求項５）。

【発明の効果】

【００１２】

以上にしてなる請求項１に係る発明のデスクの仕切装置は、複数の天板を、脚柱と支持アームとからなる側面視略Ｔ字形を有する中間脚を介して側方へ連設したデスク列において使用し、デスク列の手前の通路から天板上にわたって仕切パネルを立起状態に保持してデスク空間を区画してなるデスクの仕切装置であって、前記天板の下面側縁を前記中間脚の上面に載置して連結し、前記仕切パネルは、少なくとも前記天板上に載る水平部分と通路の床面まで延びた垂直部分を有する倒Ｌ字形の一体形状の側部仕切パネルからなり、該側部仕切パネルの水平部分は天板上に位置し、垂直部分は通路に位置してなるので、既存のデスク列の配置をそのまま用い、オプションとして仕切パネルを追加して天板上と通路に設置するだけで、デスク空間を手前の通路を含めて簡単に区画することができる。

【００１３】

請求項２に係る発明のデスクの仕切装置は、複数の天板を、脚柱と支持アームとからなる側面視略Ｔ字形を有する中間脚を介して側方へ連設したデスク列において使用し、デスク列の手前の通路から天板上にわたって仕切パネルを立起状態に保持してデスク空間を区画してなるデスクの仕切装置であって、前記天板の下面側縁を前記中間脚の上面に載置して連結し、前記仕切パネルは、少なくとも前記天板上に載る長方形形状の側部仕切パネルと、通路の床面まで延びた長方形形状の通路仕切パネルとからなり、前記側部仕切パネルと通路仕切パネルの側縁同士を連結した倒Ｌ字形の形状であり、前記側部仕切パネルは全部が天板上に位置し、前記通路仕切パネルは通路に位置してなるので、既存のデスク列の配置をそのまま用い、オプションとして四角形状の側部仕切パネルと通路仕切パネルを追加して天板上と通路に設置するだけで、デスク空間を手前の通路を含めて簡単に区画すること

ができる。

【 0 0 1 4 】

請求項 3 によれば、前記デスク列は、天板の後部に立設した机上パネルを有し、前記側部仕切パネルの端部を、係止具を用いて前記机上パネルの上下端部に係止してなるので、側部仕切パネルの端部を机上パネルに連結した立起状態で保持できる。

【 0 0 1 5 】

請求項 4 によれば、前記側部仕切パネルの端部であって、上端部に取付けた上係止具を前記机上パネルの上端部に係止するとともに、下端部に取付けた下係止具を前記机上パネルの下端部に係止してなるので、側部仕切パネルの端部を机上パネルに確実に連結することができる。

10

【 0 0 1 6 】

請求項 5 によれば、前記天板上に位置する前記側部仕切パネルの水平部分で前記天板の前縁部に対応する位置にクランプを設け、該クランプの押圧部材を天板の下面に圧接して該天板の前縁部を上下から締め付けて連結してなるので、上係止具、下係止具、クランプによる 3 点で、前記側部仕切パネルを机上パネルと天板に連結するので、立起状態に強固に保持することができる。

【図面の簡単な説明】

【 0 0 1 7 】

【図 1】本発明を適用するデスク配置を示す斜視図である。

20

【図 2】同じくデスク列の部分正面図である。

【図 3】デスク本体部の構造を示す斜視図である。

【図 4】同じくデスク本体部の分解斜視図である。

【図 5】端部脚と脚間モジュールの連結構造を示す部分分解斜視図である。

【図 6】中間脚と脚間モジュールの連結構造を示す部分分解斜視図である。

【図 7】組立状態のデスク本体部の簡略断面図である。

【図 8】本発明のワークステーションを示す斜視図である。

【図 9】同じく追加するオプションの分解斜視図である。

【図 10】側部仕切パネルを立起状態にデスク列に連結した状態の簡略断面図である。

【図 11】同じく拡大断面図である。

30

【図 12】上係止具を示す斜視図である。

【図 13】下係止具を示す斜視図である。

【図 14】クランプを示す斜視図である。

【図 15】仕切パネルの他の実施形態を示し、全部が天板の上に位置する大きさの長方形の側部仕切パネルを用い、(a)は両側の側部仕切パネル間に 1 枚の中間仕切パネルを連結した状態の正面図、(b)は両側の側部仕切パネル間に 3 枚の中間仕切パネルを連結した状態の正面図をそれぞれ示している。

【発明を実施するための形態】

【 0 0 1 8 】

次に、添付図面に示した実施形態に基づき、本発明を更に詳細に説明する。図 1 及び図 2 は本発明のデスクの仕切装置を適用する組立式デスクを示し、図 3 ~ 図 7 はデスク本体部の詳細を示し、図中符号 1 は端部脚、2 は中間脚、3 は脚間モジュール、4 は天板、5 は机上パネル、6 はサイドパネル、7 は幕板をそれぞれ示している。

40

【 0 0 1 9 】

本実施形態に係る組立式デスクは、両端部に配する端部脚 1、1、中間に配する複数の中間脚 2、...、脚間を連結する複数の脚間モジュール 3、...及び天板 4、...を有し、前記端部脚 1 と中間脚 2、あるいは両側の中間脚 2、2 に、前後中央部にダクト開口 8 を設けて天板 4、4 を前後に載置固定するとともに、前記ダクト開口 8 内で前記端部脚 1 及び中間脚 2 に取付けた支持部材 9、...に机上パネル 5、...を取付けるとともに、ダクト開口 8 にはダクトカバー 10、...を装着し、更に前記端部脚 1 の上部で外側面には前記机上パネ

50

ル 5 と同じ高さのサイドパネル 6 を取付けて構成している。ここで、前後の天板 4 , 4 の端部とダクトカバー 1 0 の間には、コードを挿通するための隙間を設けている。また、前記各脚間モジュール 3 の下部には、パンチングメタル製の幕板 7 を吊り下げている。

【 0 0 2 0 】

通常、前述の組立式デスクは、前後一对の天板 4 , 4、中間脚 2 及び脚間モジュール 3 を単位として次々に連結してデスク列を構成し、それらデスク列を平行に所定間隔を置いて複数設置して使用する。そして、デスク列は中央部の机上パネル 5 , ... で前後に仕切られており、各天板 4 の前に着座して対面状態でデスクワークを行うのである。

【 0 0 2 1 】

先ず、図 3 ~ 図 7 に基づいてデスク本体部の構造を説明する。前記端部脚 1 は、図 4 に示すように、側面視四角形の板状のものであり、上端に内方へ向けた天板 4 を取付ける取付片 1 1 , ... を前後に 4 つ固定している。また、前記中間脚 2 は、脚柱 1 2 と支持アーム 1 3 とからなる側面視略 T 字形を有し、該支持アーム 1 3 の左右両側にそれぞれ 4 つの取付片 1 4 , ... を固定している。ここで、前記中間脚 2 の横幅は端部脚 1 の横幅の 2 倍に設定している。尚、前記支持アーム 1 3 に取付片 1 4 , ... を設ける代わりに、前記支持アーム 1 3 に上下貫通した貫通孔を 2 つずつ並べて形成しても良い。

10

【 0 0 2 2 】

前記脚間モジュール 3 は、前後に間隔を隔ててビーム板 1 5 , 1 5 を配し、両ビーム板 1 5 , 1 5 の両端上部間を連結板 1 6 , 1 6 で連結し、上下貫通したダクト開口 8 を形成したものであり、両ビーム板 1 5 , 1 5 のそれぞれ端面に連結片 1 7 , 1 7 を形成し、各連結片 1 7 の下部にダルマ孔 1 8、上部に通孔 1 9 を形成している。

20

【 0 0 2 3 】

そして、前記端部脚 1 の内側面の上部に、前記脚間モジュール 3 の連結面に形成した両ダルマ孔 1 8 , 1 8 に対応させて頭部付き連結ピン 2 0 , 2 0 を突設するとともに、前記通孔 1 9 , 1 9 に対応させて螺孔 2 1 , 2 1 を形成している。同様に、前記中間脚 2 の脚柱 1 2 の上部両側面に、頭部付き連結ピン 2 0 , 2 0 を突設するとともに、螺孔 2 1 , 2 1 を形成している。

【 0 0 2 4 】

このような各部品を用いて本実施形態に係る組立式デスクを施工するには、先ず図 4 及び図 5 に示すように、前記端部脚 1 を立起状態にして、前記脚間モジュール 3 の一方の連結面に形成したダルマ孔 1 8 , 1 8 を前記端部脚 1 の内側面に突設した頭部付き連結ピン 2 0 , 2 0 に係止し、それから図 4 及び図 6 に示すように、前記中間脚 2 を立起状態にして、前記脚間モジュール 3 の他方の連結面に形成したダルマ孔 1 8 , 1 8 を、中間脚 2 の脚柱 1 2 の内側面に突設した頭部付き連結ピン 2 0 , 2 0 に係止して仮止めする。それから、前記脚間モジュール 3 の連結面に形成した通孔 1 9 , 1 9 に、ダクト開口 8 の内部から連結ネジ 2 2 , 2 2 を挿通して、前記端部脚 1 及び中間脚 2 の螺孔 2 1 , 2 1 にそれぞれ螺合する。次に、前記端部脚 1 と中間脚 2 の上面に天板 4 の下面両側縁を載置し、前記端部脚 1 に設けた取付片 1 1 , 1 1 と中間脚 2 に設けた取付片 1 4 , 1 4 に、下方からネジ 2 3 , ... を挿通して前記天板 4 の螺孔 2 4 , ... に螺合する。尚、前記取付片 1 4 , 1 4 の代わりに、前記支持アーム 1 3 に貫通孔を形成した場合には、該貫通孔に下方から長さの長いネジ 2 3 を挿通し、前記螺孔 2 4 に螺合する。

30

40

【 0 0 2 5 】

それから、前記中間脚 2 の他の側面に、他の脚間モジュール 3 の一端部を前記同様に連結するとともに、該脚間モジュール 3 の他端部に前記同様に中間脚 2 又は端部脚 1 を連結する。この状態で、中間脚 2 と他の中間脚 2 又は端部脚 1 の上面に新たな天板 4 を載置する。このように、次々と側方へ脚間モジュール 3、中間脚 2、天板 4 を連結していき、最後に反対側の端部脚 1 を連結するのである。

【 0 0 2 6 】

図 1 には、二列のデスク列 A , B の間に通路 C を設けた典型的なデスク配置を示している。このデスク配置は主に一般の従業員が使用する配置である。そして、図 8 は、前記通

50

路Cにオプションを設置して管理職やマネージャーの使用するコ字形デスク空間Dを創出した本発明の実施形態を示している。つまり、本発明に係るワークステーションは、図8及び図9に示すように、複数の天板4を中間脚2を介して側方へ連設するとともに、該天板4の後部に机上パネル5を立設して構成した少なくとも二列のデスク列A、Bを、両デスク列A、Bの天板4、4が向かい合うように間に通路Cを設けて平行に設置してなるデスク配置において、端部より中央寄り位置の通路Cで両デスク列A、Bの対向する天板4、4間に、両天板4、4に連続させて補助天板25を設置するとともに、該補助天板25の背面から両デスク列A、Bの机上パネル5、5に連続するように仕切パネル26を設け、前記補助天板25と両側の天板、...とで形成した複合天板を、仕切パネル26と両側の机上パネル5、...で囲ってコ字形デスク空間Dを創出するものである。

10

【0027】

尚、前記補助天板25を設けなくて、単に通路Cを仕切パネル26で区画するだけでも、両側に天板4、4を備え、周囲を仕切パネル26と机上パネル5、...で囲まれたデスク空間を創出することができ、その空間を簡易なミーティング空間として利用できるのである。

【0028】

ここで、前記補助天板25は、通路Cに設置した下キャビネット27を脚部として設置している。本実施形態では、前記下キャビネット27の上面に補助天板25を載置し、下キャビネット27の内部から補助天板25をネジ止めするようになっている。また、前記仕切パネル26は、机上パネル5と天板4に連結して立起状態に保持した側部仕切パネル28と、両側の側部仕切パネル28、28間に連結する単又は複数の中間仕切パネル(通路仕切パネル)29とからなっている。

20

【0029】

本実施形態では、前記側部仕切パネル28は、天板4上に載る水平部分28Aと通路Cの床面まで延びた垂直部分28Bを有する倒L字形の形状であり、前記中間仕切パネル29は長方形の形状である。前記側部仕切パネル28と中間仕切パネル29同士は端縁に設けた係合溝を利用してH字形目地部材を用いて連結できるようになっている。そして、前記下キャビネット27の背面を前記中間仕切パネル29及び側部仕切パネル28に接合し、下キャビネット27内からネジ止めするようにすればより強固になる。

【0030】

30

また、前記側部仕切パネル28は、図15に示すように、全部が天板4の上に位置する大きさの長形状、即ち前述の天板4上に載る水平部分28Aのみでも良い。そして、図15(a)に示すように、両側の側部仕切パネル28、28間に1枚の中間仕切パネル29を連結する場合と、図15(b)に示すように、両側の側部仕切パネル28、28間に3枚の中間仕切パネル29を連結する場合がある。

【0031】

次に、図10～図14に基づいて、前記側部仕切パネル28を机上パネル5と天板4に連結する構造を説明する。図10及び図11は、前記側部仕切パネル28の水平部分28Aの端部を机上パネル5に上係止具30と下係止具31で係止するとともに、水平部分28Aと垂直部分28Bのコーナー部を天板4の前縁部にクランプ32で締め付けて連結した状態を示している。ここで、前記机上パネル5は、上縁の表裏両側に係止溝33、33を有するとともに、下端部に下方へ開放した凹溝34を有している。一方、前記側部仕切パネル28の水平部分28Aと垂直部分28Bの側縁には、図12に示すようなエッジ部材35が設けられている。前記エッジ部材35は、中央部と両側の三箇所に係合溝36、...が形成されたアルミ押出し型材である。

40

【0032】

前記上係止具30は、図12に示すように、略T字形の部材であり、上部に前記机上パネル5の係止溝33に係止する下向き爪37、37を両側に形成するとともに、両下向き爪37、37の間に切欠部38を形成し、下部に前記側部仕切パネル28のエッジ部材35の両側の係合溝36、36にスライド可能に係合する係合片39、39を形成したもの

50

である。また、前記下係止具 31 は、図 13 に示すように、略 T 字形の部材であり、一端部に前記机上パネル 5 の凹溝 34 に係止する上向き爪 40、40 を形成し、基部には通孔 41、41 を形成し、前記側部仕切パネル 28 の水平部分 28A の端部下端に形成した切欠部 42 に沿って埋設した固定金具 43 にネジ 44 にて締結するようになっている。

【0033】

そして、前記上係止具 30 の係合片 39、39 を、前記側部仕切パネル 28 のエッジ部材 35 の両側の係合溝 36、36 にスライド可能に係合するとともに、前記下係止具 31 の通孔 41、41 に下方から通したネジ 44、44 を前記固定金具 43 に緩く螺合した状態で、前記下係止具 31 の上向き爪 40、40 を机上パネル 5 の凹溝 34 の下側に位置させるとともに、前記上係止具 30 の下向き爪 37、37 を机上パネル 5 の係止溝 33 に係止する。それから、前記側部仕切パネル 28 を位置決めした後、前記ネジ 44、44 を締め付けて前記下係止具 31 の上向き爪 40、40 を机上パネル 5 の凹溝 34 に係止し、更に前記上係止具 30 の両下向き爪 37、37 間の切欠部 38 と係止溝 33 内に図示しない弾性部材を詰め込んで、該上係止具 30 の上方移動を規制する。

【0034】

また、前記クランプ 32 は、上部に前記側部仕切パネル 28 の水平部分 28A の下端内部に埋設固定する水平な固定板 45 と、該固定板 45 から下方に延びた垂直板 46 と、該垂直板 46 の下端に固定板 45 と平行に設けた支持板 47 を有するとともに、前記支持板 47 には螺孔 48 を形成し、該支持板 47 に下方からコ字状の押圧部材 49 を外挿し、該押圧部材 49 に下方から通した締結ネジ 50 を前記螺孔 48 に螺合し、更に前記垂直板 46 の外側には前記側部仕切パネル 28 の垂直部分 28B の側縁に埋設したエッジ部材 35 の両側係合溝 36、36 にスライド可能に係合する係合片 51、51 を設けたものである。

【0035】

そして、前記クランプ 32 の係合片 51、51 を垂直部分 28B のエッジ部材 35 の両側係合溝 36、36 に係合するとともに、前記固定板 45 を水平部分 28A の下端部に埋設して固定する。そして、前記側部仕切パネル 28 の水平部分 28A を前記天板 4 に載置した状態で、該天板 4 の下面に位置する押圧部材 49 を、締結ネジ 50 を回転させて上昇させて天板 4 の下面に圧接して該天板 4 を上下から締め付けるのである。

【0036】

このように、上係止具 30、下係止具 31、クランプ 32 による 3 点で、前記側部仕切パネル 28 を机上パネル 5 と天板 4 に連結するので、立起状態に強固に保持することができる。そして、両デスク列 A、B に取付けられた両側の側部仕切パネル 28、28 の間に、前記中間仕切パネル 29 の両側縁を連結して保持するのであるが、それには側部仕切パネル 28 と中間仕切パネル 29 の側縁に埋設した前記エッジ部材 35 の中央部の係合溝 36 を利用して連結する。

【符号の説明】

【0037】

- | | |
|------------|------------|
| 1 端部脚、 | 2 中間脚、 |
| 3 脚間モジュール、 | 4 天板、 |
| 5 机上パネル、 | 6 サイドパネル、 |
| 7 幕板、 | 8 ダクト開口、 |
| 9 支持部材、 | 10 ダクトカバー、 |
| 11 取付片、 | 12 脚柱、 |
| 13 支持アーム、 | 14 取付片、 |
| 15 ビーム板、 | 16 連結板、 |
| 17 連結片、 | 18 ダルマ孔、 |
| 19 通孔、 | 20 連結ピン、 |
| 21 螺孔、 | 22 連結ネジ、 |
| 23 ネジ、 | 24 螺孔、 |

10

20

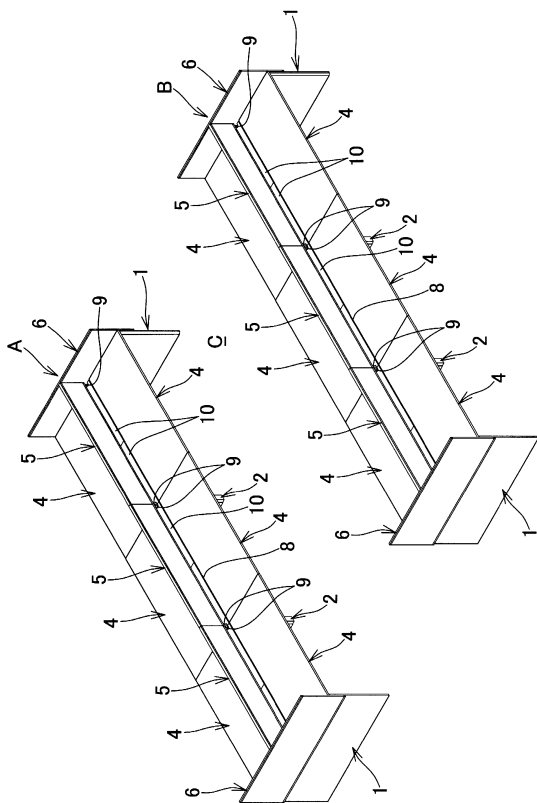
30

40

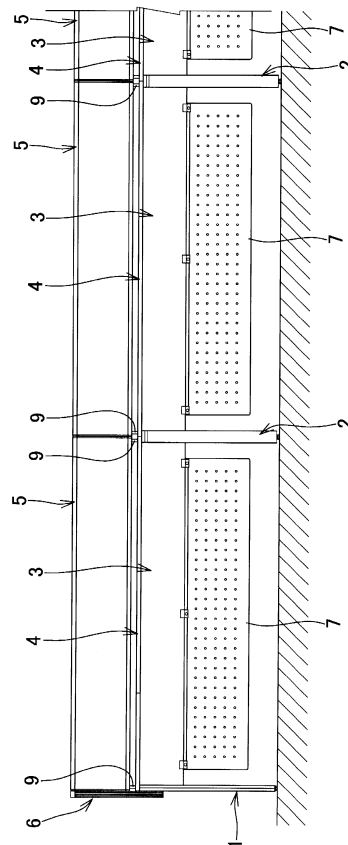
50

- 25 補助天板、
 27 下キャビネット、
 28 A 水平部分、
 29 中間仕切パネル（通路仕切パネル）、
 31 下係止具、
 33 係止溝
 35 エッジ部材、
 37 下向き爪、
 39 係合片、
 41 通孔、
 43 固定金具、
 45 固定板、
 47 支持板、
 49 押圧部材、
 51 係合片、
 A, B デスク列、
 C 通路、
 D コ字形デスク空間。
- 26 仕切パネル、
 28 側部仕切パネル、
 28 B 垂直部分、
 30 上係止具、
 32 クランプ、
 34 凹溝、
 36 係合溝、
 38 切欠部、
 40 上向き爪、
 42 切欠部、
 44 ネジ、
 46 垂直板、
 48 螺孔、
 50 締結ネジ、

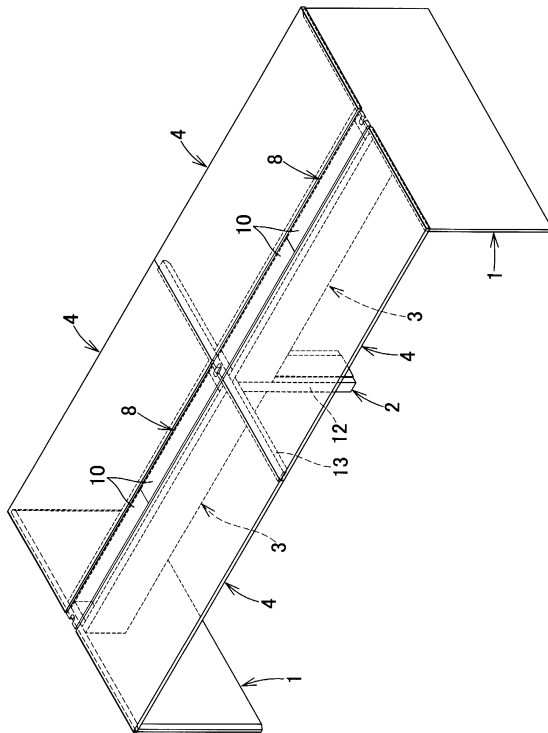
【図 1】



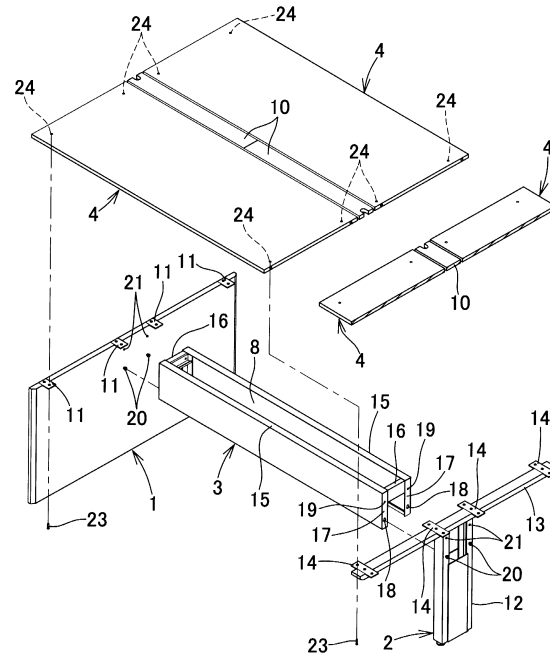
【図 2】



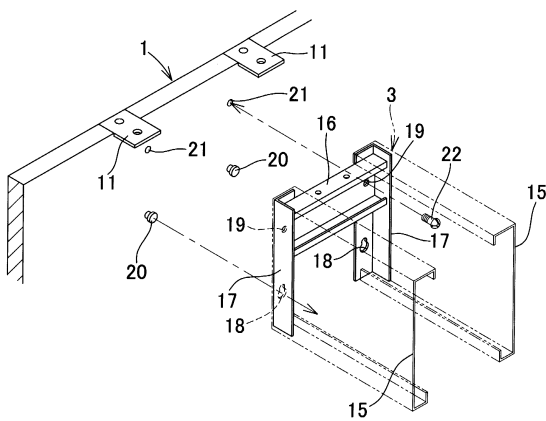
【図 3】



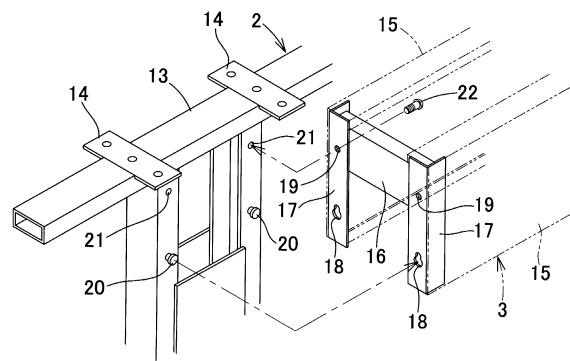
【図 4】



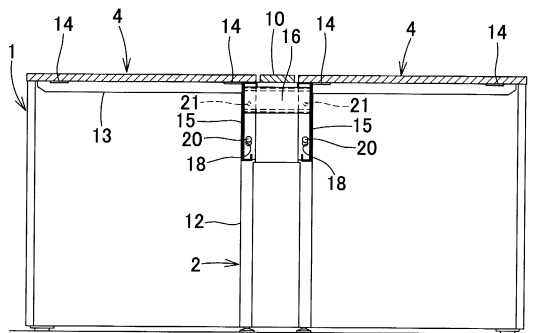
【図 5】



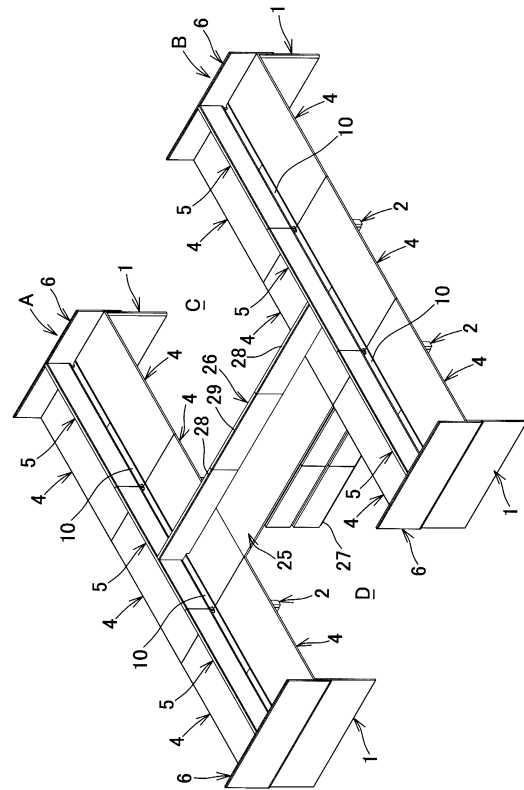
【図 6】



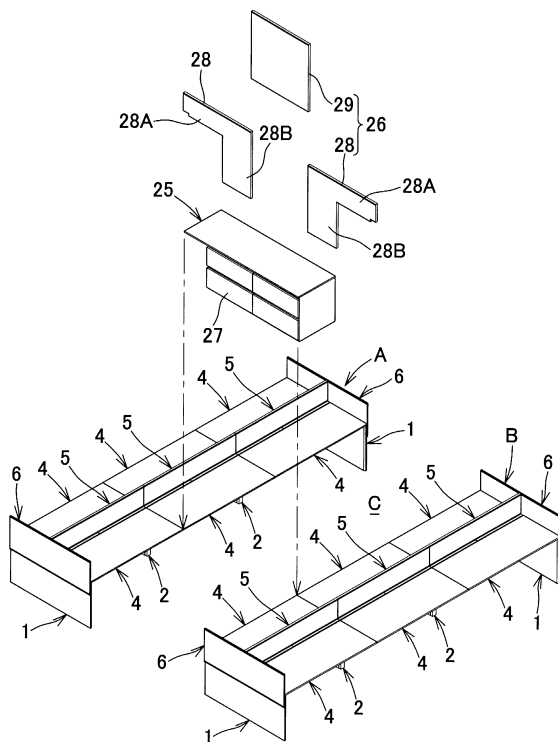
【図 7】



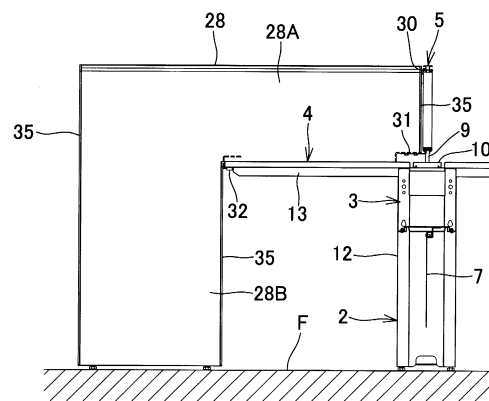
【図 8】



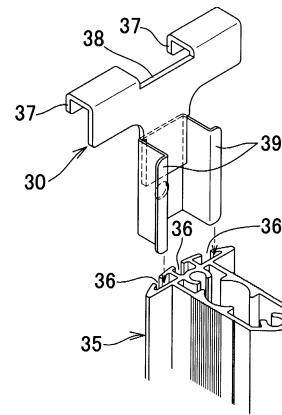
【図 9】



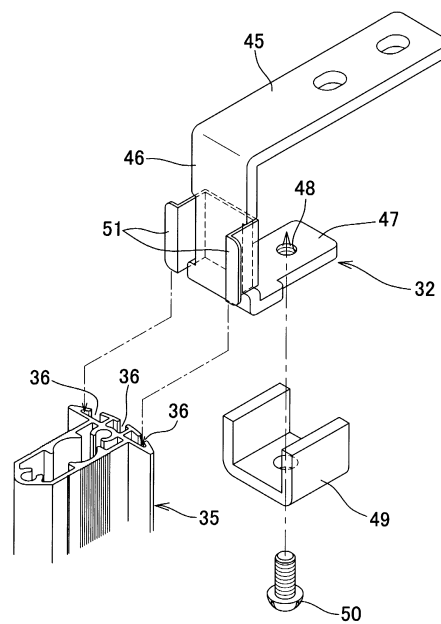
【図 10】



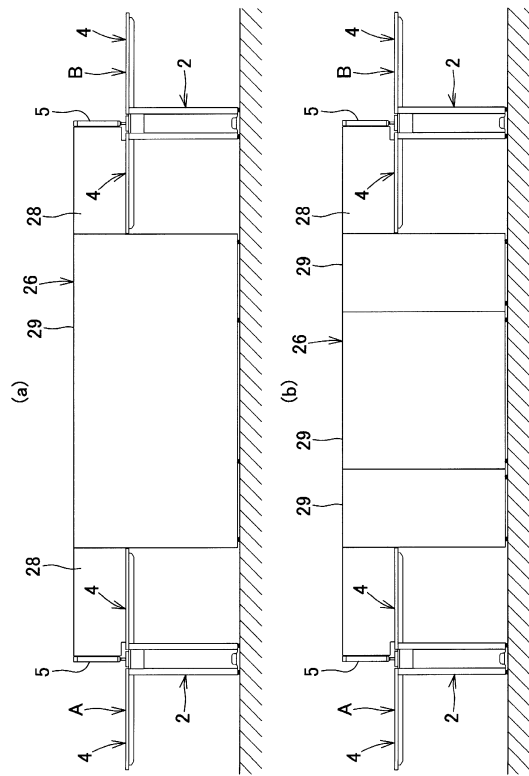
【 図 1 2 】



【 図 1 4 】



【図 15】



フロントページの続き

- (72)発明者 小玉 宏明
大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内
- (72)発明者 高草木 一
大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内
- (72)発明者 岡部 英昭
大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内
- (72)発明者 村松 秀樹
大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内
- (72)発明者 岡田 直之
大阪市城東区今福東1丁目4番12号 株式会社イトーキ内
- (72)発明者 朝比奈 高章
千葉県野田市尾崎2288番地 伊藤喜オールスチール株式会社内
- (72)発明者 高橋 一城
千葉県野田市尾崎2288番地 伊藤喜オールスチール株式会社内
- (72)発明者 白野 克明
千葉県野田市尾崎2288番地 伊藤喜オールスチール株式会社内

審査官 油原 博

- (56)参考文献 特開平04-197202(JP,A)
特開平05-211931(JP,A)
特開2004-313471(JP,A)
特開2006-149554(JP,A)

- (58)調査した分野(Int.Cl., DB名)
A47B 1/00 - 41/06